



子どもだけでなく、保護者への働きかけも大切

## Contents

- 現地活動報告  
フィリピン …P.2
- 支援で育つ子どもたち …P.4
- スポンサーの広場 …P.5
- 日本事務局から報告・お知らせ  
フィリピン活動報告会ほか …P.6
- 活動協賛グッズ情報 …P.7

## 巻頭言 見守りの目

フィリピンの貧しい人々の生活自立支援に関わり始めてもう10数年が経つ。その間、ずいぶんフィリピンの社会も変化を遂げてきた。10数年前、スクオッター（スラム）地区で裸ん坊で走り回っている男の子を見かけるのは、珍しくなかった。しかし今では、そんな姿を見かけることはあまりない。かつての日本がそうであったように、フィリピンも経済発展する中で、人々の生活が、全体的に底上げになってきた部分もあるのだろう。だが、貧富の差は歴然としているし、その社会構造も今ひとつ変化に乏しい。

本来は、こうした社会変化をもたらすための援助であるはずなのに、貧しい人々を支援しても、それがなかなか社会の仕組みを改革する力にならないのはなぜかとも思うところがある。結局は、政治を変えなくては、という結論に辿り着かざるを得ない。

しかし、この10数年、社会の一角で進められてきたささやかな援助に、確実に積み重ねられてきた部分があることを、思わされもする。今では、スポンサーの支援によって、高校に入り、大学に入るようになった子どもたちもいる。以前は考えられなかったことではあるが、それによって、彼ら

が社会に出ていき、オピニオンリーダーとして育っていくこと、また政治に直接関わることも期待させてくれる。そういう長い見守りの目で見ていけば、フィリピン社会のゆるやかな変化とともに、明日を造る人材を着実に支援し、育て続けてきたことにもなるだろう。

スクオッターの中で放置されて育てられるのと、たとえ貧しさや劣悪な家庭環境の中にあっても、愛情が注がれ、手をかけて育てようとする関わりがあって育っていくことでは、大きな違いがある。教育支援は、社会改革を求める手段としては、間接的で地味なものであるかもしれない。しかしそのような努力なくして、社会が変わることも期待し得ない。人間がいつどこでどんなことをなすうるかは、誰にも予測はできない。見守り続け、子どもたちが自分たちにとって相応の力を発揮し、社会の力となることを期待し続けたいものである。社会を変えていく子どもたちへの関わりを意識をもって、支援をし続けていただけたら幸いである。

（代表 福井 誠）

